

幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟
会報 No.56

平成30年9月30日

HPで蘇る活動の歴史

会長 馬場 洋一



今年には横浜能楽連盟創立70周年ですので、今号は「創立70周年記念号」としました。

前号でお知らせしましたが、連盟では、記念事業の一つとして「横浜能楽連盟ホームページ（HP）」を開設いたしました。第一の目的は、連盟の歴史を記録として残すこと、第二の目的は、連盟及び加盟流派・社中の活動の情報を広く公開することです。HP開設が、能楽の継承と会員の増加につながることを願っています。「横浜能楽連盟」で検索して、ぜひ一度ご覧ください。

本の表紙にあたるHPのトップ

ページには、加盟7流派の扇を華麗に配しました。そこから連盟の歴史・加盟団体の情報等お探しのページをお読みになれるように工夫しました。また、読みやすさを考慮して縦書きにいたしました。これは一般のHPではあまり例のないことだと思います。

今後、加盟流派・社中の大会や例会の最新情報も、HPに掲載していきます。これから開催する会の日時・会場が決まりましたら、「お問い合わせ」フォームからご連絡ください。ご提供いただいた情報を順次掲載していきます。開催前は「開催情報」として掲載し、終了後には「開催記録」としてデータが蓄積されますので、活動記録としてもお使いいただけます。

「幽玄」のバックナンバーも第1号から掲載いたしました。

「幽玄」の現物を毎号ご自宅に保存するのは大変ですが、HPに掲載してあれば、いつでもお読みになれます。28年分の「幽玄」は、その時代を生き生きと記録した、まさしく「生きた歴史資料」となっています。

平成2年10月発行の第1号の新堀会長挨拶には「5月の横浜市議会で横浜能楽堂の建設が承認された」と、大きな喜びの声に掲載されています。また、神奈川文化賞受賞、第50回記念「横浜能」など、どの号にも連盟の歴史がリアルタイムで刻まれています。各号の投稿記事も圧巻です。初めて能楽を知ったときの高揚感、初めて演能をした充実感、稽古を始めた頃を振り返る安堵感など、お一人お一人の能楽とのかかわりの歴史が書き留められていて、新鮮な感動が伝わってきます。

HPの開設は、3年前から検討を開始したものの、全員素人で堂々巡りするばかりでした。そこで専門家を頼んで理事全員で勉強会を開き、数人の「HP導入委員会」を組織したところから、ようやく実現化に近づきました。制作会社と打ち合わせしても、最初はお互いに「能楽」と「WEB」の用語が分からず、意思疎通さえできませんでした。導入委・事務局の皆さん

のご尽力に感謝いたします。

HPは連盟にとって新たな一歩であり、連盟の目的を果たす上で重要なものとなると思います。何とかスタートまでこぎつけましたが、今後の活用については様々な模索を重ねていかねばなりません。掲載情報も十分と言えない部分もあり、皆様のご協力により充実させていきたいと思えます。

末筆となりましたが、勉強会の講師・検討のアドバイザーとしてお力添えをいただいた（株）エルクスの犬飼邦夫会長には深く感謝申し上げます。

連盟報告（平成29年度）

企画事業担当 青山 圭佑

「能楽大会」は、平成29年10月7日（土）に、横浜市文化観光局の共催を得て、担当流派金剛流にて開催されました（詳細は55号に報告）。また、「第21回五流交流のつどい」は、30年3月17日（土）、担当流派宝生流にて開催されました（詳細は今号にて報告）。

三、横浜能

横浜能楽堂との共催「第65回横浜能」は、平成29年6月17日（土）開催されました。能「養老」（観世流・梅若紀彰）狂言「薬水」（和泉流・野村又三郎）。チケット完売と盛況でした。

四、会報等について

「幽玄」は第54号（平成29年9月30日付）と第55号（30年3月31日付）を発行しました。また、今年度も大会の際にはPR用チラシを作成し、市の各地区センター等に配布しました。これにより、観客の増加傾向が見られたように感じられました。「つどい」では幽玄号外4号を作成し、受付にて配布しました。

五、会員の動向

高齡化により、会員数の減少が続いています。個人会員数は

◎第34回横浜五流能楽大会

平成30年10月13日（土） 午前9時45分開場

会場 横浜能楽堂／入場無料

五流競演曲「老松」他、謡と仕舞が演じられます。

平成29年3月には415名でしたが、30年5月の時点では388名です。

「第21回五流交流のつどい」報告

宝生流 山添 富士子

平成30年3月17日(土)、横浜能楽堂本舞台において、「第21回五流交流のつどい」が開催されました。演目は素謡15番、連吟3番、仕舞23番(学生3番)、独吟1番の計42番で、延べ出演者は290名でした。

特別招待出演として、実践女子学園高等学校能楽部(喜多流)の生徒さんによる若々しい仕舞3番が舞台に花を添えてくださいました。学校の都合により、出演時間が午後3時過ぎとなりましたが、会長挨拶でそのことに触れてお願いし、ご家族がみえたこともあって、見所は満員状態でした。このように様々な学校のクラブが盛んに活動しているのを見るにつけ、能楽の未来にはまだまだ明るい兆しがあるように思えます。

全体の運営に関しては、皆様方のご協力のお陰で大きな問題もなく円滑に進行し、予定より12分早く終了いたしました。会を重ねるごとに、舞台の出入りや進行のシステム、またスリッパ・下足・昼食等の問題などに

ついて様々な改善が図られ、出演される皆さんの意識も変わってきているようです。

今回、「幽玄」が手違いで間に合わず、当日配布できなかったことは残念でしたが、4回目となる「号外」を配布し、好評を得ました。



謡曲五訓

観世流 平戸 仁英

芸の道にはゴールがないと言われていますが、謡曲道も例外ではありません。謡を趣味としてからおおよそ60年経過しましたが、いまだに分らないこと悩むことがしばしばあります。「初心忘るべからず」は世阿弥の言葉ですが、最初についた師匠から受けた、初心者向けの教

えが素晴らしく、今もってそれを時折思い出し、噛みしめて、「自戒の拠りどころ」としています。そのいくつかをご紹介します。

- 一、教わったことは忘れない
- 二、読み違いをしない
- 三、謡は声楽であることを心得て謡う

プロと違ってアマチュアは、本を読みながら謡うのが通例だから、心して本を読みなさい。本を見ながら読み違えることほどみつももないことはない。

呼吸などの技術・能力を総動員しなくてはならない。これらは教わってできるものではなく、自身の工夫と努力によって体得できる。

のようなかを十分に理解しておかなくてはならない。

謡曲と家族

観世流梅若会 山口 恭江

私の幼少の頃、家でよく謡曲を練習する父の声が聞こえていました。佐渡出身の父は、学生時代に故郷を離れているため、生家近くに能舞台があったことで、社会人になってすぐ会社の謡曲サークルに入会したと思っ

ていました。音痴で口惜しかったから」と、笑いながら話していたことを思い出します。

謡曲と家族

観世流梅若会 山口 恭江

母も、父の影響か友人グループで近くのサークルで謡い、よく久良岐の謡曲のつどいに参加していました。好きなことをして元気でいる両親を応援しよう

興味も関心もなかったのです。母が亡くなって数年たったある日、横浜の広報に久良岐での謡曲教室の募集が載っていたのが目に留まりました。そのことを父に話すと、母が私に習って

「少し経験してみるのがいいかもね」と申し込んだのが、私の謡曲の始まりとなりました。

時が過ぎ、父が亡くなった際に形見として長兄から一つの箱を渡されました。しまい込んですっかり忘れていましたが、昨年ポツポツ始めた断捨離中に見つけて中を見たところ『観世流改訂謡本』五番綴りの厚本が二十数冊、一曲ごとの本と共に出てきたのです。

改訂謡本一頁目には、「明治四十年井上頼圀・丸岡圭で本文を整へ観世清之節附を訂し、校正の遺漏を補う」と五回、そして大正五年山崎楽堂拍子附訂正、尚節附様式を統一の改訂謡本に至る」と記されています。今に至る謡本の歴史を感じる本、すごいなあーと思いつつ、父が若い頃持っていた本なのだと思つていたらパラめくると、挟まっていた数枚の紙がこぼれ落ちました。それは素謡会のお知らせで、その1枚には「第六十八回、大正九年二月、本郷区湯島新花町稲荷社々務所にて」と記され、出

演・幹事として、私が写真でしか知らない母方の祖父の名が記されていたのです。

習い始めたキッカケは色々。でも、明治大正の祖父、昭和の両親、そして平成の私、三代も続いたこのつながりと、謡曲を勉強できる今を大切にしていきたいと思えます。

私が謡を始めた頃

宝生流 坂本 盛夫

私と謡の付き合いは、昭和48年の入学早々早稲田大学宝生会に入会した時に始まりました。それまで謡に馴染みがあったわけでもなく、誰に勧められたわけでもありませんでしたが、自ら宝生会の門をたたき、初日から「鶴亀」を習いました。今考えると素晴らしいことですね。

当時の学生会館の3階には音楽関係の部室が2つ並んでいて一つには我が宝生会・金春会・下懸宝生会が、隣には観世会・喜多会・狂言研究会が入っていました。観世流や下懸宝生流には、ここからプロの能楽師になった先輩方がおられます。当時の宝生会の会員は、同学年が5人、全体では15人程でした。

毎週、渡部良吉先生に謡の稽古をつけていただきました。部室の向かいの和室で、鸚鵡返し

で行い、1回の稽古で1番あげていたように記憶しています。

良吉先生は大学のOBで、学生に熱意と愛情を持って多くの示唆を与えてくださいました。早大宝生会の魅力は、先生の御人格によるものが大きかったと思います。「鍛練とは継続すること」と先生のこの言葉は、折にふれて思い出されます。

授業に行かない時には、金春会や下懸宝生会の常連達と部室の長机を囲んで過ごしていました。時折上級生が稽古をしてくれます。上級生が下級生を指導すると言えば普通のことのようにですが、稽古わずか1〜2年では教えるというのは、学生ならではのことでしょう。

年に2回、合宿もしました。春はいつも千葉県岩井の海辺の民宿を借り、夏は毎年場所を変えて行いました。激励にみえた社会人の先輩方も一緒になって朝から晩まで謡い、途中で声が嘎れてくるのはいつものこと、むしろ声が嘎れるのを競うように大声で謡っていました。

年に1回宝生能楽堂で開催される、関東学生宝生流能楽連盟（関宝連）の大会や、東京・名古屋・京都・金沢を持ち回りで行われる全国学生宝生流能楽連盟（全宝連）の大会に出かけたことも、良い思い出です。

謡との出会い

喜多流 斎藤 隆正

何年も前のことですが、仕事のお得意様グループにゴルフに誘われた時、帰りの車の中で、東儀秀樹のCDをかけていました。皆さん寝ていると思ったら一人だけ寝ていない方がいて、「斎藤さん、雅楽好きなんですね」と言われました。「いや好きというほどではありませんが、リズムがゆったりとして聞くと心が落ち着くので、車でたまに聴いています」と返事をすると「それだったら一度見学においで」「何を見学するんですか?」「謡だよ」ということで、何だかわからないけれど軽い気持ちで見学に行きました。

見学に行くと、6名の方が正座して先生とお稽古をされていました。休憩の時に紹介され、いきなり正座させられて謡本のコピーを渡され、仲間にさせられました。皆さんビジネスのお付き合いの立派な方達でしたので、謡はわからなくてもこの方達となら楽しいだろうと思いい、入会しました。お稽古も6人いますから、適当に声を出していればと、気楽にできました。発表会前のお稽古だけは真剣にやりました。楽しかったです。

6名の方が一緒の時は1年ぐ

らいで、仕事の都合で3人になり2人になり、とうとう私1人になった時には、謡の稽古が少々苦痛になってきました。先生と私だけですから、一生懸命声を出すことになりました。仕事で疲れて、また謡でくたびれ、稽古が楽しくなくなりました。毎回そんな思いで、今現在も稽古が苦痛に感じます。しかし、楽しい時もあります。先生のお宅で発表会があります。発表会近くになると、先生のお宅で相手とおさらいのお稽古をさせていただけます。お稽古を終えた帰りの食事が最高です。先輩との会話に、美味しい飲み物をいただくひと時、謡との出会いのご褒美です。

久良岐能舞台の集まりで上手な方の謡を聴くのも、楽しい一時です。特に上手な方の謡は、情景が浮かんで引き込まれます。才能ももちろんでしょうが、人一倍熱心にお稽古をされている努力の賜物なのだと思います。人を感動させることができる謡を謡う、いつかそんな夢を叶えたいと思っています。

人生百年

金春流 榎山 俊二

私と謡の出会いは、もう20年以上も前のことになります。し

かも、謡というものを何も知らないまま始めてしまいました。そもそも能というものを、観たことも触れたこともなかったわけです。日本史の教科書の中で単語として知っていただけで、室町時代の文化の記述に観阿弥・世阿弥と能・狂言、そして猿楽・田楽が出ていました。

「大きく声を出す」「怒鳴るつもりで声を出す」「おなかから声を出す」「背筋を伸ばして、体全体を楽器だと思って、思いっきり声を出す」……そうです、謡は健康法です。大きな声でストレスを分散しましょう。姿勢もよくなります。私は謡を健康法として続ける意味を見出し、今も続けています。

とは言え、仕事で「芸は身を助ける」こともありました。ベトナムの取引先が新たに会社を設立するということで、気楽に出張したところ、着いてから「明日の設立祝賀パーティーで一言挨拶してもらいたい」とのこと。何の用意もないので、考えた末、謡を披露することにしました。地元TV局も来ており、海外のお客さんも大勢いたのですが、結果は皆さん喜んでくれた握手攻めにありました。もちろん国内でも何度か発表の機会があり、周りからは「ちょっと人とは違う稽古事をしている」

ことをうらやましがられもしました。

数年前からは、もう一つの健康法として真向法体操を始めました。これは小泉純一郎がサンデー毎日の中で「私もやっています」として紹介されていたもので、下半身の筋力を鍛え、股関節を柔らかくする体操です。骨格を調整するとも言われています。基本の形は4つで、1回3分間の簡単な体操です。

謡で喉を鍛えて誤嚥性肺炎にならないようにし、真向法で足を鍛えて歩き続ける。人生百年、「ピンピンコロリ」を目標に、謡と真向法をまだまだ続けたいと思います。

天女にインタビュ

金剛流 辻 芳彦

今年の3月横浜能楽堂で「泰山府君(たいさんぷくん)」の演能がありました。これは金剛流にのみ現存している曲です。

簡単に紹介しますと、世阿弥作の五番目切能物または初番目物で、季節は陽春、場所は京都の桜町中納言の邸宅。桜町中納言は桜の花の命が7日と短いことを惜しみ、泰山府君を祭り延命を祈願します。そこに天女が降り立ち、花を愛で、一枝折つ

て持ち帰りたいと思います。月が明るいので天女はしばしため

らいますが、月が入り暗くなつたのに乗じて一枝折って天上へ帰ります。それに気づいた花守は急いで中納言に告げ、泰山府君に祈るよう促します。やがて泰山府君が姿を現し、その通力で天女が花を手折ったことを知ると、天上から天女を呼び寄せます。泰山府君は手折った枝を元に戻させ、花の命を三七二日まで延ばすのでした。

ワキの桜町中納言は藤原成範のことで、歌人としても知られるので、歌人としても知られるその父は藤原道憲(信西)、妹は小督局です。後シテの泰山府君は道教の聖地「泰山」への信仰から生まれた神で、謡本では「閻魔王の太子」とされており、

生類の生命を司ります。

天女に花を盗ませることは作者の創作と思われ、特にモデルもないので、作中の天女にインタビュしてみました。

質問1：桜の枝を折ったのはなぜですか？

天女：覚えてません。桜がキレイだなと思って、気づいたら私の袖の所に枝があったのよ。質問2：月が照らしている間ためらっていたのはなぜですか？天女：明るい何となく悪いこととはできないものよ。

質問3：泰山府君に呼び戻された時はどんな気持ちでした？

天女：もうパニック！せっかく桜の枝を眺めてまったりしてたのに。まあ、戻させられた時にはある程度観念してたけどね。質問4：花の命が三七二日まで延びたことについては、どう思われますか？

天女：えっ、そうなの？じゃあ次の休みでもまだ間に合うじゃん。また行ってみようっと。……うーん、この天女、全く懲りていないようです。

さて、「泰山府君」は私にとって縁のある曲です。今から30年以上前、大学生の時に後シテの泰山府君を演じました。また今年9月8日にセルリアンタワー1能楽堂で開催される銀座豊星会で、後ツレの天女を演じさせていただきます。桜の枝を折つてもどこか憎めない愛嬌ある天女を舞えればと思っています。

謡曲と私

下懸宝生流 鈴木 稔

スマホ・インターネット・マイカー……。この世の便利なものに背を向け、時代遅れの生活をし、古典芸能に興味を持つ私です。友人から謡曲入門の誘いを受け、一も二もなく峰謡会に入会いたしました。峰謡会は

地域活動の一環として藤田先生が開いている教室で、お稽古は月2回です。

ご指導は、声の出し方はもとより物語の背景、登場人物のとなり・心情にまで及びます。謡曲には難解な言葉が次々に出てきますが、曲目ごとにA4用紙2〜3枚にわたる古語解説を先生からいただいています。例えば、現在お稽古中の「井筒」で、待謡の「昔を返す衣手に。夢待ちそへて旅枕」については「いとせめて恋しき時はうば玉の夜の衣を返しぞぬる(古今集・小野小町)」の歌意に依り、思う人を夢に見たいので夜着を裏返しに来て寝る」という解説があります。

出典は野上豊一郎著「謡曲全集」(中央公論社)を主とし、他数点によるもので、作業は相対にエネルギーを要するのではないかと気づかれますが、先生はご自身の勉強にもなるからとのこと、会員としてはとてもありがたいことです。また、謡曲の中の「美しい日本語」にも言及があり、同感するところ多

くあります。謡曲は平家物語・源氏物語・伊勢物語等を典故とするものが多く、これらの古典に接することも楽しみの一つです。とりわ

け平家ファンの私としては「忠度と和歌」「経政と琵琶」「敦盛と笛」と、みやびな平家の公家たちを偲び、鎮魂の気持ちを入れて接しています。

思いもかけず八十の手習いとなりましたが、先生や入会を勧めてくれた友人に感謝しつつ、謡曲を通じてこれからも背筋をピンと伸ばして生きていきたいと思っております。

◆編集後記◆

今号は記念特集のためページ数をふやし、現在も会員であり、理事経験のある方等を中心に、70周年に際してや連盟に対する思いなどを執筆いただきました。なお、当然寄稿いただきました

かった新堀豊彦元会長・観世流鈴木氏・堀内元副会長は、体調不良等により残念ながらご執筆いただけませんでした。今年の夏は、異常なほどの暑さでした。会員の皆様、健康には十分ご留意ください。

横浜能楽連盟連絡先

事務局 倉藤

TEL045183511361

◎横浜能楽堂

TEL045126313055

◎連盟後援行事

「第35回横浜かもんやま能」11月24日(土)午後2時開演・横浜能楽堂本舞台／「第38回面友会能面展」31年3月下旬・横浜馬車道アートギャラリー・入場無料